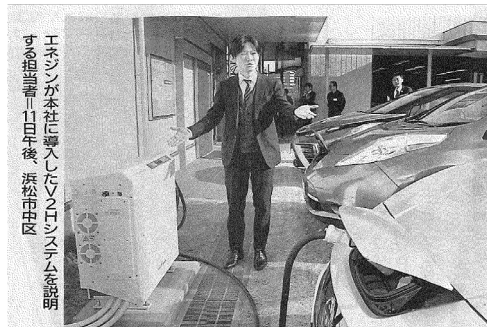


V2Hシステム導入！オフィス電力の新提案！



エネジが本社に導入したV2Hシステムを説明する担当者。11日午後、浜松市中区

EV⇔オフィス 電力活用

LPガス販売のエネジ（浜松市中区）は、電気自動車（EV）をオフィスなどの電力システムにつなぐV2H（ヴァイクル・トゥー・ホーム）システムの新たな利用モデルを提案し、普及に力を入れる。同区の本社にV2Hと太陽光発電を導入し、12月から稼働を始めた。

非常時は従業員のEVから電力を確保できるように、平時はV2Hを通じてEVを無料充電できる社内制度を整えた。自社での活用実績を踏まえ、エネルギーの効率的な利用や事業継続計画（BCP）のモデルとして、中小企業のオフィス向けに年間10%の販売を目指す。

導入したシステムは、満充電（バッテリー残量50%時）のEV1台で照明やパソコンなど計約4千ワットを約12時間使用できる。夏場など、電力の使用量が増える

V2Hモデル提案 エネジ

時間帯にEVから送電してピークを抑えることで、同社の場合は電気料金を年間約4万円抑える効果もあるという。

総工費はニチコン製のV2H装置や出力9.6kWの太陽光発電を含めて計約400万円。藤田源右衛門社長は「V2Hの運用方法をひと工夫した。EVを活用するモデルとして広めたい」と強調した。

（浜松総局・白木俊樹）

静岡新聞に、V2Hシステム導入の説明会の様子が掲載されました。昨今の電気代高騰の背景や、EV車の普及、自然災害による非常時の電力確保の必要性が高いことから、会社にV2Hを導入することで、「非常用電源の確保」「電気代の削減」「従業員のEV車の無料充電」を実現しました。

事業継続計画（BCP）の新しいモデルとして、周辺の中小企業へ広めていくことで、地域全体が災害に強い街になるよう取り組んでいきます。

令和5年(2023年)12月12日(火) 静岡新聞

